



6月1日朝礼 校長先生のお話

1学期始業式で、みなさんに新型コロナに気を付けながら、3つの「あ」を大切に、「友達（ともだち）を **も**っともっと 笑顔（**え**がお）にしよう」を心がけて楽しい学校生活を送りましょう、ということをお話しました。この袋井北小の大切なめあての「**ともえ**」に加えて、昨年からは、もう一つめあてができました。2年生以上のみなさん、覚えていますか。それは、「**協働**」です。今日は、この協働についてのお話をします。

みなさんは、アリを知っていますね。アリの協働のお話です。アリは泳ぐことができるでしょうか。答えは、「できません」。しばらく浮いていることはできますが、やがてはおぼれてしまいます。でも、たくさんの仲間と協力して、川を渡ったアリがいます。では、協力したアリはどのぐらいの幅の川を渡ることができたと思いますか。今から言う①、②、③から選んでください。

- ① 1mぐらい
- ② 10mぐらい
- ③ 100mより長く渡ることができる



答えは③です。100mより長い距離を渡ることができたのです。では、その川を渡ったアリのお話をします。

アフリカでの出来事です。長い長い日照りが続いたある夏のことでした。大地は乾いて食べる物も飲む物もなくなりました。生きるため、仲間を守るため、アリのリーダーは決心しました。「巣を変えよう!」、「よし、川を渡ろう」川の向こう岸から、かすかに食べ物のにおいがすることに気付いたのです。この川は、ナイル川という世界一長い川です。長さは約6700km、幅は広いところでは50kmも、狭いところでも500mほどあります。アリたちはお互いにくっつき、やがて3000匹ものアリたちが集まってボールのように固まりました。黒いサッカーボールのようになったのです。ボールはコロコロと転がって、ポチャンと川の中に落ちました。アリのボールは川に浮かびますが、水の上に出るのは3分の1の1000匹ぐらいです。残りの2000匹は水の中です。ずっとこのままでは、水の中のアリはおぼれて死んでしまい、最後にはみんな川の底に沈んでしまいます。そうならないように、アリたちは、どんな工夫をして川を渡るのでしょうか。

答えは、みんなで協力して、ボールを回転させながら流れていくのです。上のアリたちが呼吸をしている間、下のアリたちは苦しくても上のアリのために我慢して支えます。そして、回転します。すると、みんな交代で呼吸することができます。これを繰り返して、何十日もかかって向こう岸にたどり着きます。もし、誰かが、苦しいことはやりたくないと言って、ずっと上にしようとしたら、まず下のアリが死んでしまい、やがて、みんなおぼれてしまいます。そうならないようにするアリの協力はすごいなと思いました。



私たちも、このアリのように、お互いに相手を思いやる心をもって、助け合い、励まし合い、協力して、よりよい考えや活動をつくることを大切にしたいと思います。このようなことが「協働」です。

では、袋井北小のみなさんは、どんなことをすればいいのか説明しますね。まず、友達の話をしっかり聞いてあげましょう。できればうなずきながら聞いてあげると、お話ししている友達はうれしくなります。

次に、友達のお話の良かったところを認めてあげましょう。もし何か言いたいことがあったら、その後で伝えるようにしましょう。

そして、何か活動する時には、友達と助け合い、力を合わせて活動していきましょう。

最近、静岡県内でも新型コロナが多くなってきています。新型コロナ対策で守ってほしいことは、学級で先生から聞いてください。

では、新型コロナに気を付けながら、「友達を もっともっと 笑顔にしよう」「協働」を心がけて、今以上に笑顔あふれる袋井北小学校にしていきたいと思います。



規模を縮小して「交通安全リーダーと語る会」を実施しました！

当初は、北地区交通安全会委員、PTA 会長、PTA 常任委員（地区役員）、スクールガードボランティアさんなど、50 名以上の地域の皆様をお迎えして実施する計画でしたが、感染症対策のため、大幅に規模を縮小しての開催となりました。



6 年生全員と全職員、外部からは袋井警察署交通課職員 1 人と交通安全指導員 2 人のみの参加とし、全体会をリモートで行ったのち、地区ごとに通学路の危険な場所、登校時に困っていることなどについて、意見を出し合い、対応策、解決策を話し合いました。引き渡し訓練の際、親子で通学路の危険箇所について確認してくださっていたので、活発な話し合いとなりました。また、災害時に緊急避難できる場所についても、確認しました。

警察のお話では、今年の 1 月以降、県内小学生の交通事故はすでに約 200 件発生し、そのうちの 10 件が袋井・森警察署管内で発生しているそうです。10 件中 9 件は自転車事故です。登下校中ではなく、帰宅後、あるいは休日に事故が多いということが分かります。中でも「10 件のうち 3 件が北小の児童の交通事故です。」との報告にゾッとしました。



北小の前の道路を横断しようとする子供や大人の姿を見かけて、冷や冷やすることがあります。目の前に、地下道があるのは、横断が危険な場所だからです。子供だけでなく、大人も交通安全への意識を高め、学校・家庭・地域が一丸となって悲惨な交通事故をなくしていかなければなりません。

幸いにも、今年本校児童が巻き込まれた交通事故で、大きな怪我をしたり、後遺症が残ったりするような大きなものは今のところありません。しかし、一歩間違えれば命を落とす事故になった可能性もあります。子供の危険な行為を見かけた時には、その場で子供に分かるように注意をしていくことで、子供たちに判断する力が養われていきます。しかし、それ以前に、危険な行為をさせないために、折にふれ、子供と一緒に交通安全のこと、命の大切さについて話し合うことがもっと必要だと今回の交通安全リーダーと語る会を通して強く感じました。